

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析と指導改善のポイント(朝来市立大蔵小学校)

国語

(1) 結果の概要

- ・ 正答率は全国・県平均を上回っている。
- ・ 条件付きで話す内容をまとめることについて全国平均に比べ、よくできていた。
- ・ 漢字の書き取りや送り仮名について全国平均に比べよくできているか同等の正答率である。
- ・ 敬語の使い方について、全国平均に比べよくできている。
- ・ 記述式の問題を含め無回答がほぼなく、全員が最後まで取り組もうとする姿勢が見られる。

(2) 内容に関して(○:良い傾向の内容、△:課題のある内容)

- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること (3二)
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること (2二)
- 学年別配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと (1三 (1))
- 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと (1三 (2))
- 日常よく使われる敬語を理解していること (3三)
- △原因と結果など、情報と情報との関係について理解すること (1一)
- △図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること (1二)
- △情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと (2三)
- △文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること (2四)

(3) 指導改善のポイント

- ・ 教科横断的なデータや資料の読み取りの力を身に付けるため、資料を読み取る際に「何が問われ」ていて、「何が重要な言葉」であるかを確認しながら進める指導を継続する。
- ・ 問われている内容を的確に把握するために、題意を確認して読み取る指導を継続する必要

がある。

- ・読書習慣や語彙力の強化などは本校の取組が成果となって表れていると思われる。今後も継続していく必要がある。
- ・書き出しのある条件文は比較的できている。ペアや班での話し合いの機会を増やし、話を交わらせることで言い出しや書き出しを自分で考え、深められていく指導を継続していく必要がある。
- ・漢字の書き取り等の力がついている。今後も読み書きともに力を入れていく。
- ・日常の学校生活の中で、意見を言ったり、全体をまとめたり、進行したりするなかで会話力から文章力に昇華させる機会があるので、ぜひ挑戦する気持ちを切らせずに学習に取り組ませる。

算数

(1) 結果の概要

- ・正答率は全国や県平均を上回っている。
- ・計算の手順や公式等はよく理解できている。
- ・応用を必要とする課題にもしっかりと取り組み、考えることができています。
- ・無回答の児童はなく、粘り強く取り組む姿勢が見られた。

(2) 内容に関して(○:良い傾向の内容、△:課題のある内容)

○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること (1 (1))

○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いること (1 (2))

○正方形の意味や性質についての理解 (2 (2))

○ () を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ること (3 (1))

△ (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えること

△高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること (2 (4))

△正三角形の意味や性質についての理解 (2 (3))

(3) 指導改善のポイント

- ・自分の考えを説明する場面を授業に取り入れるようにする。
- ・文章を正確に読み取るために、図に描いたり、線を引いたりして理解するよう指導を継続していく。
- ・図形の単元では、実体験や生活体験と結び付けて考えさせる場面を増やしていく。試行錯誤しながら図形を実際に操作させ、視覚的に図形の仕組みを理解させる手立てをさらに取り入れていく。

児童質問紙

(1) 分析(○:良い傾向の内容、△:課題のある内容)

- ICT 機器を使うことが役に立つと回答した児童の割合が高い。
- 学校で、タブレットを活用しているという児童の割合が高い。
- 国語がわかる (どちらかといえばも含む) と答えた児童、大切に役に立つと思っている児童ともに大変高い割合である。
- 算数がわかる (どちらかといえばも含む) と答えた児童、大切に役に立つと思っている児童ともに大変高い割合である。
- 授業で学んだことを他の学習で活かしていると答えた児童が大変多い。
- 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると回答した児童が大変多い。
- 地域の行事に参加している児童の割合は全国平均より高い。
- △実際には取り組んでいる児童でも、自信のなさから「そう思わない」と答える児童が見ら

れる。

△自分と違う意見について考えることに対して苦手意識がある。

△新聞をほとんど、あるいは全く読まない児童の割合が高い。

(2)指導改善のポイント

- ・携帯電話やスマートフォンのルールを守る意識や活用時間の見直しをする。
- ・新聞記事に関心を持てるように工夫する。また、新聞記事を読んで自分の意見を書かせるなどの取組を全学年で系統性を持たせて実践する。
- ・国語の「読み取り」の学習を研究する（質問紙の意味の取り違えをなくす）。
- ・生活アンケートの項目を工夫し、自己肯定感の低い児童に対して面談やチャンス相談を行うなど、児童に前向きな声掛けをする。